

## 市町村指定文化財取材票 《表》

取材日	2023年	3月	11日	(記入者)	西田 裕美
取材参加者	石井	西田	西野	宮本	本井
取材対象先	奈良市：法徳寺の木造阿弥陀如来立像				

所在地	奈良市十輪院町23				
所有者（取材 対応者）名	法徳寺 *** 副住職 (個人情報守秘)			連絡先 0742-22-3451	
				PCアドレス	
取材申込	申込先・行政名など：法徳寺				
市町村 指定文化財	彫刻	1軀	木造阿弥陀如来立像	1991(平成3)年4月10日指定	
	建造物	棟	名称（指定年月日）		
文化財指定理由	市内に残る平安時代後期の優れた阿弥陀如来立像として貴重				

## 文化財の状況

	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
防火対策	本堂の天井には何か所も煙感知器を設置。しっかりとした火災警報器を取りつけてある。2台の消火器は年に1回点検を受けている。	きちんと対策しておられる。
	被害の有無、対策など	記入者の感想
獣害対策	床下、特に西の柱の下が白アリの被害に遭っており、補修が必要と感じているというお話であった。	見えにくいところまで法徳寺さんのほうで見て回り、実態を把握されていると感じた。
保存～継承 へ 苦労と 今後の課題 と対策	明治時代、今から4代前の住職の時代に合わせて2回(小僧の時と住職になってからの時)、寺が全焼した。本堂は長柄の天理教の建物、庫裏は東大寺の塔頭の建物を移してこられた。こちらのお寺でも檀家が減ってきて厳しい状況である。	

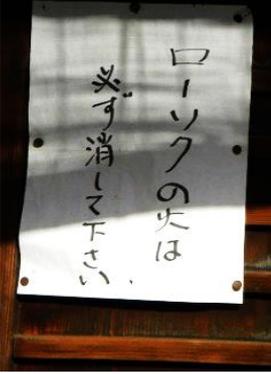
## 取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題（修復、維持、管理、環境など）

明治時代、寺が2度全焼した。そのことを最初に副住職がお話された。特に「全焼」という言葉を強調されていた。このことから、当時のご苦労について代々語り継ぐとともに、防火に対する強い思いを持っておられることがうかがえた。庫裏の戸に「ローソクの火は必ず消して下さい」という張り紙があった。そのそばには檀家の方が墓参りに来た時に水を汲む水道があり、水道の蛇口をひねってバケツに水がたまるのを待つ間に顔を上げるときと目にすると思われる場所であった。

市町村指定文化財取材票《裏》

取材日	2023年	3月	11日	(記入者)	西田 裕美
取材参加者	石井	西田	西野	宮本	本井
取材対象先	奈良市：法徳寺の木造阿弥陀如来立像				

《写真撮影許可済（堂内のご本尊写真を含む）》

文化財指定名 木造阿弥陀如来立像	
文化財（正面写真）	文化財（角度を変えて、写真）
 <div data-bbox="536 450 695 757" style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">                 ご本尊の 写真                  本堂内に置かれていた             </div>	
文化財（安置状態の全体写真）	火に関する注意書き
	
文化財の由緒・説明板の有無など	所有社寺や地域（廃寺など）の歴史や特徴等
<p>明治時代の火災の後に、ご縁があって客仏としてお迎えされたのが、後に指定文化財となったご本尊の木造阿弥陀如来立像。ふっくらとおだやかな表情で、衣文は浅く整った形に刻まれている。台座は江戸時代の作とみられ、法隆寺からの伝来を示唆する銘文がある。説明板は表門のそばにある。</p>	<p>もともと広がった元興寺の境内にあり、その鬼門を守っていたのが多聞院で法徳寺の前身ともいわれている。1605(慶長10)年、倍巖(ばいがん)上人によって中興された時から法徳寺という名称になった。明治時代に2度の火災に遭っているが30体以上の仏さまが縁あってここに集まり、特に興福寺におられた仏さまが多い。すぐそばの毘沙門町の由来となった毘沙門天は、現在この寺の境内で道に面したお堂に安置されている。</p>